

かめのり財団大学院留学生奨学金 月次報告書

2011年12月

東京大学大学院経済学研究課経営専攻博士課程 徐寧教

12月の研究生生活を報告させていただきます。

11月30日に、学校の授業で発表を行いました。この授業は「経営学文献購読」といい、前も紹介させていただいた通りに、自分の興味のあるメイン論文を翻訳・紹介した後、周辺研究を整理して発表するというものです。今度私は、Argote L.&Ingram P (2000) Knowledge Transfer: A Basis for Competitive Advantage in Firmsという論文をメインとして取り上げました。これは、組織内における知識移転を研究しているもので、組織内で知識がどこに保存されるかに注目した研究です。知識がどこに保存されるかによって、知識を移転する方法、難しさなどが異なると主張しています。私は、この論文はいままで戦略論の分野であった知識移転論と組織論をつなぐ大事な論文になると評価しています。この論文を中心にこれから自分の研究を広げていきたいと思いました。

12月も様々な企業を調査しました。

まずは、元トヨタの工場の方をインタビューしました。アメリカの工場にも勤務したことがある方で、その頃の話をとくさん聞くことができました。80年代にトヨタがアメリカにどのように工場を移転していたのかはなかなか記録としては残っていないため、これは貴重な機会だったと思います。さらに、名古屋にまで行って現在トヨタの工場移転や海外人材育成を担当している方ともインタビューが出来たので、この2つのお話をあわせてトヨタ自動車の海外生産戦略の全体像を描いて行きたいと思います。

大阪のダイキン工業にも行ってきました。これは学校の仕事で、私の研究とは直接関係がなかったのですが、海外工場と本国工場に関する話を聞くことができ、面白かったです。また、実際にエアコンが作られている工場の様子も見ることができました。

1月にはインド調査に行くことになりました。指導教官の先生から声がかかり、1月の始めに10日間調査にいけることになりました。インドのビザを取り、スケジュール調整を行うなど、かなり急いで準備を進めています。

12月はいろんなところで忘年会に参加し、すこし食べ過ぎ・飲み過ぎだったのではないかと思います。しかし、友達・仲間と楽しく年末を過ごすことができるとてもよかったです。

以上